

令和4年度

北の国・森林づくり技術交流発表会プログラム

会場：北海道大学学術交流会館(札幌市北区北8条西5丁目)

Web配信：YouTube Live(配信期間2月20日まで)

令和5年2月14日(火)

YouTubeLive : <https://youtu.be/tbdTyU7VxO0>

- ◎ 受付 9:00 ~
- ◎ 開会式 9:30 ~ 9:55
- ◎ 口頭発表
 - 森林技術部門 10:00 ~ 11:00
 - 高等学校部門 11:15 ~ 12:00
- ◎ ポスター発表コアタイム 13:00 ~ 13:45
- ◎ 口頭発表
 - 森林技術部門 13:45 ~ 15:15
 - 森林保全・ふれあい・地域連携部門 15:30 ~ 16:30

令和5年2月15日(水)

YouTubeLive : <https://youtu.be/EcfgUt8RfyQ>

- ◎ 受付 9:45 ~
- ◎ 口頭発表
 - 森林保全・ふれあい・地域連携部門 10:15 ~ 11:30
- ◎ 特別発表 12:30 ~ 13:45
- ◎ 特別講演 14:00 ~ 15:00
- ◎ 講評・表彰式 15:05 ~ 15:30
- ◎ 閉会式 15:30 ~ 15:35

※ 北海道森林管理局が発表会で撮影する発表者や来場者等の写真等映像は、Youtubeで配信され、北海道森林管理局ホームページや技術交流発表集に使用致しますので、予めご承知おきください。

林野庁 北海道森林管理局

令和4年度 北の国・森林づくり技術交流発表会 (1日目)

令和5年2月14日(火)

場所:講堂(1階)

森林技術部門①(4課題) 10:00~11:00

高校部門 (3課題) 11:15~12:00

森林技術部門②(6課題) 13:45~15:15

森林保全・ふれあい・地域連携部門①(4課題) 15:30~16:30

【森林技術部門①】

10:00~ ① 造林・保育コストの縮減に向けた取組み (最終)

上川中部森林管理署 岩館 正宣

〔ササ覆い地における地拵を人力と3種類の大型機械で行い、その後の植生の回復とコンテナ苗の生長を調査。3年目以降に下刈作業の省略化に差が生じるとともに、コスト縮減について検証したので報告する。〕

10:15~ ② 天然力を活用した低コスト再造林技術への取組 ~「表土戻し」地拵による天然更新~

空知森林管理署北空知支署 谷本 直緒子、中嶋 佑輔

〔天然力を活用した低コスト再造林技術となりうる「表土戻し」地拵の普及に向け、表土戻しと通常の地拵施行地における天然更新木や下層植生、植栽木の成長について調査し、施業の効果と低コスト化の可能性を検証する。〕

10:30~ ③ 天然力を活用した低コスト再造林技術への取組 ~植栽と天然更新による「ハイブリット造林」の可能性~

空知森林管理署北空知支署 柏 智久、谷本 直緒子

〔過去5年間に実施した大型機械地拵による植栽地の天然更新調査を行った。かき起こしによりササの根茎を除去した地拵における、低密度植栽と天然更新を活用した「ハイブリット造林」の可能性について検証した。〕

10:45~ ④ 施業条件がドイツウヒの初期成長に及ぼす影響

網走西部森林管理署 高橋 陽祐、阪本 海

〔再造林の低コスト化に資すると期待されるドイツウヒについて、施業条件を変更し初期成長を評価した。ドイツウヒ普通苗の伸長成長・肥大成長は、トドマツと比較して地拵の方法にかかわらず高い値が得られた。〕

休憩 (11:00~11:15)

【高等学校部門】

11:15~ ① ミズナラ未利用材からのコーヒー開発

旭川農業高等学校 澤田 圭祐、宮里 凰介

〔道産ミズナラ材はジャパニーズウイスキーの注目により需要が高まっているが、供給の不安が想定される。そこでミズナラ端材からの成分抽出によって、同じく供給不安が指摘されるコーヒーの代用品開発を目指した。〕

11:30～ ② 私たちが考える月形演習林の未来像

岩見沢農業高等学校 遠山 優弥、小平 唯吹、森下 温大

〔月形町に位置する本校演習林の人工林は、11齢級以上のトドマツ人工林が大半であり、伐採・更新の時期を迎えている。トドマツ林伐採後の森づくりのあり方について、林床の稚樹調査をもとに検討した。〕

11:45～ ③ 帯広農業高校学校林でのカラマツ再造林の取り組みとエゾヤチネズミの発生・食害の状況について

帯広農業高等学校 藤原 万尋、栄前田 穂華、蓮井 颯太、人見 紗有里、今井 ゆい、本間 輝

〔帯広農業高校には約10haのカラマツ人工林があり、平成20年からエゾヤチネズミの発生予察調査を継続してきた。その結果をもとに、現在取り組んでいる伐採・再造林を進めていく上での課題について検討する。〕

昼食休憩 (12:00～13:00)

ポスター発表コアタイム 13:00～13:45

【森林技術部門②】

13:45～ ⑤ レーザードローンを用いた林業現場の省力化、効率化の試み

住友林業株式会社 大沼 直樹

〔林業会社において、レーザードローンを活用した森林資源量の推定や地形情報の把握、またこれによる業務の省力化や効率化、解析結果の応用方法について発表する。〕

14:00～ ⑥ 低価格な2周波RTK-GNSS受信機の森林内での測位精度

東京大学北海道演習林 平間 睦樹、中川 雄治、福士 憲司、千井野 聡
東京大学樹芸研究所 江口 由典

〔森林内のGNSS測量において近年は低価格な製品が発売され森林内での高精度測位が期待されている。低価格な2周波GNSS受信機を用いてアンテナや方法、時間などの条件を変えて測位した精度の比較結果を報告する。〕

14:15～ ⑦ 道南スギの収穫予測に基づく施業体系の実証について

北海道渡島総合振興局西部森林室普及課 村上 雅文、大庭 聖

〔道総研林業試験場が開発した「道南スギ収穫予測ソフト」の検証を目的として、道では平成29年度に実証林を設定した。それから5年が経過し、定期調査を行ったのでその結果を報告する。〕

14:30～ ⑧ 広葉樹資源育成を目指した強度除伐の試行について

道央森林整備事業協議会 工藤 穂
石狩森林管理署 久慈 正志

〔地がきによりダケカンバが更新した箇所において、更新したダケカンバを原木として早期に活用できるよう生育を促すための強度の除伐を試行し3年経過したので、除伐方法や生育状況等について報告する。〕

14:45～ ⑨ 苗齢1-1年生トドマツコンテナ苗の育成
大幅な育苗期間の短縮(2年生苗)

北海道山林種苗協同組合紋別地区種苗協議会 遠藤 貞
北振種苗有限会社 尾田 美敬

〔通常裸苗で5年、コンテナ苗で4年かかるのを、2年で育苗出来ないかの研究で目的は、①大幅な育苗期間の短縮(苗齢1-1年生コンテナ苗)②コンテナ苗の生産拡大③下刈期間短縮・省略(持続生長・大苗生産)について報告する。〕

15:00～ ⑩ 北海道における最新式タワーヤーダを用いた森林施業の可能性について

(株)細畑林業 細畑 利典

〔最新式タワーヤーダが九州・四国地方から導入されています。北海道は緩やかな地形が多いですが、過去には集材機を使用していた地域もあるため、木材産業の発展を目的とした、森林施業の可能性を模索する。〕

休憩(15:15～15:30)

【森林保全・ふれあい・地域連携部門①】

15:30～ ① 防風林整備における植栽樹種の選択について

空知森林管理署 井口 真緒、土屋 美月、木村 雅代

〔老齢化した防風林の若返りを図るため、地域の要望も踏まえ、伐採した林縁部に低木広葉樹を複数種植栽しており、植栽木の生存率、樹高、野鼠や雪害の被害状況等を調査し、適性のある更新樹種を検討した。〕

15:45～ ② 雷別地区自然再生事業の取組状況と今後の環境に配慮した施業について

釧路湿原森林ふれあい推進センター 角田 和久、南 達彦

〔雷別国有林(標茶町)のトドマツ人工林立枯れ被害跡地において、ボランティア団体や地域住民、企業の社会貢献活動と協働した広葉樹の森林づくり(自然再生)の取組内容と今後の環境に配慮した施業の予定を紹介する。〕

16:00～ ③ 民国連携によるエゾシカ捕獲困難地対策事業への取組について

胆振総合振興局 三好 岳志
後志森林管理署 中澤 慧人、妻鳥 洋年

〔エゾシカ捕獲困難地対策事業は今年度から始まった取り組みです。振興局が事業発注者となり区域を広域化、複数の市町村にまたがる国有林の中で銃猟禁止区域の場所を選定し、地域と連携してエゾシカ捕獲を行います。〕

16:15～ ④ 東京大学北海道演習林における虫害の観察記録
-1980年からの43年間-

東京大学北海道演習林 井口 和信

〔通常、森林と昆虫類による食害の間にはバランスが保たれているが、時として崩れることがある。著者は現場での森林管理に従事し、さまざまな虫害を経験してきた。そのうちの主な記録を紹介する。〕

令和4年度 北の国・森林づくり技術交流発表会(2日目)

令和5年2月15日(水)

場所:講堂(1階)

森林保全・ふれあい・地域連携部門②(5課題)
特別発表(4課題)
特別講演

10:15~11:30

12:30~13:45

14:00~15:00

【森林保全・ふれあい・地域連携部門②】

10:15~ ⑤ 民有林に向けた林業先進技術の普及について

留萌北部森林管理署 二階堂 辰也、小澤 光

〔地域林業の実情から、国有林での取組事例について、管内の自治体林務担当者や森林組合の職員の方々に
対して、林業先進技術の普及に取り組んだ内容を発表する。〕

10:30~ ⑥ 地域住民に認知される国有林を目指して ~ビジタースポット及びデジタル森林浴を活用した国有林PR~

上川北部森林管理署 岡村 澄香、小林 昌志

〔国有林PRのために取り組んだビジタースポットやデジタル森林浴の実施状況・成果や課題点等について発表
するとともに、他署でも取り組めるPRの手法について提案する。〕

10:45~ ⑦ 北森カレッジにおける人材育成

北海道立北の森づくり専門学院 土屋 禎治

〔北海道立北の森づくり専門学院、通称「北森カレッジ」は令和2年度に開校し、令和4年3月に初めての卒業生
を社会に送り出した。林業・木材産業を担う人材育成に向けた、北森カレッジにおける2年半の取組を報告する。〕

11:00~ ⑧ 北海道の森林資源(アカエゾマツ・ハマナス)を活用した製品開発の検討

明治大学商学部 柴田 優香、川添 悠河、矢萩 隆明

〔ストレス解消、空気浄化などを目指す木製品開発を検討しました。①細いアカエゾマツ原木によるアロマディッ
シュ/②ハマナス原木の石鹸置きです。これら小さな取組は将来的に新たな需要を生み出す可能性がありま
す。〕

11:15~ ⑨ シラカバ1本からの小さな生業(ナリワイ)づくり ~夕張市森林活用型地域人材育成事業~

夕張市 地域振興課 武田 信仁

〔「縮小社会」真っ只中の夕張市において、森林由来の自然素材を活用し、生きがいや収入など地域に生き
ることに繋がるナリワイ(生業)創出を目的として実施している地域人材育成事業について報告します。〕

昼食休憩(11:30~12:30)

【特別発表】

12:30～ ① 広葉樹資源を持続的に育成するための取組

北海道森林管理局森林技術・支援センター 谷村 亮

〔 広葉樹資源を持続的に育成していくための更新補助作業として、「地がき」と「根返し」を組み合わせた新たな試験に取り組んでいる。本発表では、試験内容の紹介とこれまでの調査結果の一部について報告する。 〕

12:45～ ② トドマツの天然更新における強光ストレスの影響について

国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所北海道支所植物土壌系研究グループ 北尾 光俊

〔 耐陰性の高いトドマツは林内の暗い環境でも稚樹の生存が可能です。一方で、上木伐採により光環境が急激に変化した場合には、強光ストレスによって前生稚樹の成長や生存に影響が出ることが明らかになりました。 〕

13:05～ ③ 風倒害に強い森づくりの指針の提示

北海道立総合研究機構 森林研究本部林業試験場 阿部 友幸、滝谷 美香、藤原 拓哉

〔 台風などによる森林風倒害が増加していますが、被害を受けやすい「地形」の特定、および「施業方法の改善」により、風倒害に強い森づくりが可能です。この風倒害に強い森づくりの方法について、指針を作成しました。 〕

13:25～ ④ 北方樹種の早期着花性

国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センター北海道育種場 中田 了五

〔 採種園での低コスト採種と林木育種サイクルの短期化を期待して、若齢で樹体サイズが小さいうちに着花し種子を生産することができる個体や遺伝的系統の選抜に関する取り組みを紹介します。 〕

休憩 (13:45～14:00)

特別講演 14:00～15:00

特別講演

令和5年2月15日(水) 14:00~

レジリエンスと自然再生

胆振東部地震と知床世界自然遺産から学ぶもの

北海道大学大学院農学研究院教授

中村 太士

【略歴】

1958年愛知県名古屋市生まれ。1983年北海道大学大学院農学研究院農学専攻修士課程修了。農学博士。1984年北海道大学農学部助手として採用。

1990年同講師、1992年同助教授、2000年同教授。1990年から1992年までアメリカのオレゴン州立大学で生態系管理学を学ぶ。森林と川のつながりなど、生態系間の相互作用を土地利用も含めて流域の視点から研究している。

【委員等】

中央環境審議会、国土審議会、社会資本整備審議会委員、北海道環境審議会会長、釧路湿原自然再生協議会会長、知床世界自然遺産地域科学委員会委員等を務める。

【受賞歴】

2005年日本森林学会賞、2009年生態学琵琶湖賞、2011年尾瀬賞、2012年みどりの学術賞、2013年北海道大学研究総長賞、2017年日本農学、読売農学賞、2018年北海道科学技術賞、紫綬褒章受賞(章)。



【講演の概要】

2018年北海道胆振東部地震によって発生した斜面崩壊面積は44km²に及び、明治以降に記録された地震に伴う斜面崩壊の中で最大でした。

この数字は、それまでの記録であった2004年新潟県中越地震の約4倍にあたり、多くの人工林や自然林も破壊され、今後の森林復興が大きな課題となっています。ここでは、災害後に残された地形や植物遺骸(biological legacy)が、その後の森林回復に重要な役割を果たすことを述べたいと思います。

また、海と陸のつながりが顕著な普遍的価値をもつことで2005年に世界自然遺産に登録された知床では、このつながりを分断する治山・砂防ダムの改良工事が森林管理局や道庁の協力のもと進められ、多くのサケ科魚類が、上流域に遡上し産卵できるようになりました。

ここでは、サケの遡上という視点を越えて、流砂の連続性がもたらす生態系の健全性、漁業資源の持続性という視点から、ダム改良の意義を再評価してみたいと思います。

【編著書】

- 森林学の百科事典(丸善出版)
- 河川生態系の調査・分析方法(講談社)
- 森林と災害(共立出版)
- 河川生態学(講談社)
- など多数

令和4年度 北の国・森林づくり技術交流発表会(ポスター発表)

令和5年2月14(火)～15日(水)

場所:ロビー(1階)

14日コアタイム 13:00～13:45

※ポスター発表の内容は北海道森林管理局ホームページでも見ることができます。

P01 リモコン式草刈機による刈り払い作業の軽労化に向けた取組について

根釧西部森林管理署 中山 佳之

〔当署にリモコン式草刈機が導入されたことから、林業事業者や市町村の担当者等を対象とした検討会を開催し、意見交換やアンケート結果等を参考に軽労化が求められている刈り払い作業での活用について検討した。〕

P02 格子状防風林における下刈作業の機械化に向けた検討

根釧東部森林管理署 谷 政智、杉原 優人

〔平坦地が多い格子状防風林では下刈の機械化が期待されるが、伐根の存在が支障となることが多い。今年度大型機械による伐根反転作業を実施した結果及び今後の植栽方法と大型機械による下草処理方法を検討する。〕

P03 造林作業の「高効率・低コスト・軽労化」の取組 ～ 令和4年度の取組～

十勝東部森林管理署 中野 夏未、神田 健冴、葦野 亜紀子

〔これまで造林作業の「高効率・低コスト・軽労化」の取り組みを行ってきており、大型機械による下刈の現地検討会を開催し、そのアンケート結果から、今後の機械化導入に向けた課題・問題点等を考察したので報告する。〕

P04 造林作業の省力化 ～下刈の省力化にかかる取組～

上川南部森林管理署 松本 英宣

〔造林事業における保育作業の担い手不足は深刻化しており喫緊の課題となっている。当署では特に負担感の強い下刈作業の負担軽減・効率化に焦点を置きつつ、事業化ベースで導入するための課題解決への取組を行った。〕

P05 無人航空機(UAV)による測量支援について

日高南部森林管理署 村角 隆司、森上 慶士
新冠町役場産業課 野上 啓行

〔町に無人航空機はないが、「無人航空機(UAV)で撮影し作成したデータや図面等の申請に利用できることとなった」ので、森林管理署の支援を受け、業務軽減に向けた検証を行ったので、成果と今後について発表する。〕

P06 UAVを活用した造林作業の省力化に向けた取組 ～苗木運搬を事例として～

網走南部森林管理署 嶋崎 哲也、田原 菜々海

〔慢性的な造林作業の担い手不足が深刻化、特に、植え付作業はその全ての工程において人力に頼らざるを得ない現状であり、造林作業の省力化に向けて改善すべき重要な課題と捉え、林業用ドローンに着目し、その実用性を検証することを目的とした。〕

P07 スマート林業EZOモデル構築協議会の取組 ～ICTハーベスタを活用したデータ取引の可能性について～

北海道水産林務部林務局林業木材課林業 田中 君祐

〔道内の市町村や森林組合、大学、研究機関、道などの産学官からなる「スマート林業EZOモデル構築協議会」では、ICTハーベスタを活用した人力検知の省略や、素材生産のデジタル情報による木材流通などを検証した。〕

P08 コンテナ苗における夏期植栽について

網走西部森林管理署 高田 晴日

〔近年、コンテナ苗の利用によって労働者不足による諸課題への対応が期待されている。そこで、網走西部流域の地方特有な気象条件に着目し、コンテナ苗による植栽期間の延長化(夏期植栽)が図られるかどうか調査した。〕

P09 下刈りの省力化を目指した取組みについて

網走中部森林管理署 大場 陽貴、桑原 紫苑

〔網走東部流域では、林業事業体の担い手不足の問題から造林未済地の増加が懸念されている。そこでコンテナ苗植栽地に緩効性肥料等の追肥を行い、初期成長を促進させることで下刈を省力化できないか検証しました。〕

P10 苗齢1-1年生トドマツコンテナ苗の育成 大幅な育苗期間の短縮(2年生苗)

北海道山林種苗協同組合紋別地区種苗協議会 遠藤 貞

北振種苗有限会社 尾田 美敬

〔通常裸苗で5年、コンテナ苗で4年かかるのを、2年で育苗出来ないかの研究の目的を報告する。①大幅な育苗期間の短縮(苗齢1-1年生コンテナ苗)②コンテナ苗の生産拡大③下刈期間短縮・省略(持続生長・大苗生産)について報告する。〕

P11 苗木規格差に着目した生長量比較試験について

留萌南部森林管理署 佐々木 颯

北海道森林管理局治山課 金子 裕馬

〔本試験は「苗木の規格差による『生長量』『活着率』等の違い」を調査し、今後苗木規格を選択する際の一指標となることを目的に実施した。本発表では現時点での成果を報告するとともに、今後の展開について考察する。〕

P12 既存撮影機器を活用した造林検定における省力化の検証と考察

檜山森林管理署 加藤 巧、道場 直樹

〔造林請負事業の完了は検定に合格することで判断されます。昨年からの検定にドローンの活用が可能になったことを受けて、ドローンやその他既存の撮影機器を活用した検定省力化の可能性について検証と考察を行いました。〕

P13 エゾシカ生息調査のAIを活用した画像判読

網走西部森林管理署西紋別支署 竹下 尚輝

〔自動撮影カメラの画像データを元にAIに画像判読させ、シカの頭数を計測した。人力で計測したシカの頭数と比較し、補正係数を算出することで、AIによる画像判読のみでシカの頭数を精度良く割り出せるようにした。〕

P14 知床半島における中小型哺乳類の生息状況調査について ～外来生物のモニタリングのために～

知床森林生態系保全センター 清水 晴彦

〔当センターでは、平成21年から継続してセンサーカメラを使用した中小型哺乳類の生息状況調査を行っている。十数年間の調査で得たデータから、知床の野生生物の生息状況およびその変化について発表する。〕

P15 利尻島における地域と関わる取り組みについて

宗谷森林管理署 長谷部 文香

〔利尻島は面積の約7割が国有林であり、森林環境保全のためには地域関係者の理解・協力が不可欠である。そのため、町広報誌への記事掲載等を行っており、その近年の取り組みを紹介する。〕

P16 赤井川村における村有林整備計画の樹立及び事業実行に向けた支援の実施

石狩森林管理署 中鍵 貴之

〔赤井川村は林務担当者の経験が浅い中、村有林整備計画の樹立と事業の実行にむけた取り組みを行っている。このため、石狩森林管理署では職員による民有林支援チームを作り、技術的な支援を行っていることから、この取組を報告する。〕

P17 アイヌ文化振興への貢献(第2報)

胆振東部森林管理署 樋口 雅俊、大水 香澄、廣瀬 由羽

〔令和2年9月、ポロト自然休養林内にアイヌ文化に密接に関わる樹木を植栽した「ボン・ニタイ(小さな森)」を設定した。令和4年10月に生長状況を調査し、確認された課題について対応策を検討したので報告する。〕

P18 21世紀・アイヌ文化伝承の森における伝統的利用草本植物の生育状況について

平取町アイヌ施策推進課 吉原 秀喜
(株)平取町アイヌ文化振興公社 木村 美咲
日高北部森林管理署 大室 諒太、武田 恵

〔アベツ国有林では、平取町、平取アイヌ協会との3者協定に基づき、地元アイヌ団体による文化継承が行われている。文化利用されている草本植物を対象に、生息状況や資源量について調査し、今後の管理方針を検討した。〕

P19 北森カレッジにおける人材育成

北海道立北の森づくり専門学院 土屋 禎治

〔北海道立北の森づくり専門学院、通称「北森カレッジ」は令和2年度に開校し、令和4年3月に初めての卒業生を社会に送り出した。林業・木材産業を担う人材育成に向けた、北森カレッジにおける2年半の取組を報告する。〕

P20 農版コンテナ苗の生産

～マルチキャビティコンテナの形状の違いを知ろう～

旭川農業高等学校 一ツ柳 樹来、善方 遥斗、稲村 琉斗

〔本校ではコンテナ苗の栽培に、サイドスリット方式とトリブ方式+サイドスリット方式の2種類の容器を使っています。栽培容器の違いによって苗高、根元直径、根等の成長にどのような影響があるかを調べました。〕

P21 ミズナラ未利用材からのコーヒー開発

旭川農業高等学校 澤田 圭祐、宮里 鳳介

道産ミズナラ材はジャパニーズウイスキーの注目により需要が高まっているが、供給の不安が想定される。そこでミズナラ端材からの成分抽出によって、同じく供給不安が指摘されるコーヒーの代用品開発を目指した。

P22 廃ほだ木の再利用に関する研究

旭川農業高等学校 林 一也、太田 碧海

本校ではミズナラをほだ木として、シイタケの原木栽培を行っている。栽培後に発生する廃ほだ木を用いて、菌床栽培用の培地やクワガタ・カブトムシの幼虫用マットへの再利用について研究した。

P23 未利用資源に光を ～北海道産線香づくりの研究～

旭川農業高等学校 山本 零

一般的にはスギの葉やタブノキから作られる線香を北海道の樹木でつくるのができないか検討をしてみました。トドマツの葉や鋸屑を用いて、材料の作成と成形までを目指した研究について報告をします。

P24 帯広農業高校学校林でのカラマツ再造林の取り組みとエゾヤチネズミの発生・食害の状況について

帯広農業高等学校 藤原 万尋、柴前田 穂華、蓮井 颯太、人見 紗有里、今井 ゆい、本間 輝

帯広農業高校には約10haのカラマツ人工林があり、平成20年からエゾヤチネズミの発生予察調査を継続してきた。その結果をもとに、現在取り組んでいる伐採・再造林を進めていく上での課題について検討する。

P25 岩見沢農業高校月形演習林における掲示教育の推進活動の記録(2022)

岩見沢農業高等学校 大森 煌樹、細谷 瑠希乃、本荘 杜虎、宮城 輝拓、山下 優弥

本校の月形演習林は広大であるため、実習などにおいて林道や林分位置等の情報を把握することが難しくなっています。そこで、演習林内に案内掲示板を設置することでそれらの問題点を解決する活動をスタートしました。

P26 私たちが実践する校内見本林の創造 ～地域に開かれた憩いの場を求めて(2022)～

岩見沢農業高等学校 西原 佑岳、北田 星楠、田村 秋菜、棟方 煌貴、村上 陽大

本校の見本林は常に開放しているものの、実際に利用する人は多くありません。そこで、見本林をもっと多くの方に利用してほしいと考え、人や野生動物たちの憩いの場となる見本林を目指して活動をスタートしました。

P27 新たなスロープトイを開発し、コロナ禍でも木の魅力を広く伝えたい

旭川農業高等学校 矢内 琴音

私たちが今までに作成したスロープトイが大小様々で持ち運びや設置場所に困ることから、ワークショップ用携帯スロープトイの開発を目指すとともに、コロナ禍においても木の魅力を伝える新たな活動を展開している。

P28 体系的・実地的な木育に関する取組について

岩見沢農業高等学校 泉 景太、原 昂平

本校では、市内保育園と年間を通じた連携事業を展開しており、今年度は手作業だけではなく自然に触れあいながら活動する木育を行いました。私たちが設定した、ねらいを達成するための実践内容について発表します。

会場での注意事項

【新型コロナウイルス感染症防止のための注意事項】

1. 体調(風邪症状)のすぐれない方はご入場をお控えください。
2. ご入場時は必ずマスク着用をお願いいたします。
3. 受付時や会場入場時には、検温をお願いいたします。
熱が高い場合ご入場をご遠慮ください。
4. ご入場される前に手指のアルコール消毒をお願いいたします。
5. 会場内ではできる限り会話をお控えください。
6. 座席数は抑えていますので指定された座席に着席ください。

【その他のご注意事項】

1. 携帯電話等は、電源を切るかマナーモードに設定してください。
2. 大学敷地内は禁煙のため喫煙はご遠慮ください。
施設には喫煙室はありません。
3. 施設運営において、施設内での飲食については、
飲み物は可能ですが、食事はできません。
4. ゴミは各自で持ち帰ってください。

ご協力をお願い!

記入したアンケートは忘れずにアンケート回収箱へ投函ください。

メールでのアンケート提出については北海道森林管理局ホームページをご覧ください。

URL: <https://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/>



[北の国・森林づくり技術交流発表会運営事務局]

北海道森林管理局 森林整備部 技術普及課

北海道札幌市中央区宮の森3条7丁目70番

011-622-5245

